

令和4年度 三重大学教育学部附属幼稚園 教育ビジョン

附属学校園の共通教育目標

主体的、創造的に
生き抜く心豊かな
子どもを育てる

学校教育目標

心身ともに健康で 心豊かに
たくましく生きる子どもの育成

附属学校園のめざす子ども像

＊正しいことや、美しいことを
求め、粘り強く行動する子ども
＊お互いを大事にし、高め合お
うとする子ども

めざす幼稚園像

- 豊かな自然環境の中で四季を感じられる幼稚園
- 夢中になって遊びこめる幼稚園
- 安全で安心して生活できる幼稚園
- 家庭、地域に信頼され愛される幼稚園
- 健康な心と体が育つ幼稚園

めざす子ども像

明るく健康で
豊かな心情をもち
友達と考え合って
のびのびと活動する 子ども



めざす教師像

- 保育に対する情熱と意欲をもった教師
- 保育に対する向上心と研究心を常にもっている教師
- 自身の教育（保育）観、仕事に対する自信と柔軟性もち、同僚を尊重し、協力しながら仕事を進めていこうとする教師
- 温かく子どもを見守り、子どもの可能性を信じ、伸ばそうとする教師
- 保護者と共に子どもの育ちを支えていこうとする教師



めざす姿の実現に向けて

- 基本的な生活習慣や生活に必要な技能の育成
- 身体感覚の育成
- 意欲、好奇心、探究心、集注して取り組む力等の育成
- 豊かな心情・意欲・態度の育成

夢中になって遊ぶ子どもの育成

保育環境の充実

- ひととの対話が深まる保育環境の構成
- 安全で安心な環境づくり
- 幼児理解に基づく適切な保育環境の構成
- 教材研究・自己研鑽の充実

- 人への親しみ、信頼感の育成
- コミュニケーション能力の育成
- 四季、自然事象への興味関心
- 異年齢の友だちとの交流
- 家庭との連携推進

友達とつながる嬉しさ、かかわる喜びを感じる子どもの育成

教師の資質向上

- 幼児の発達理解、発達を意識した援助
- 保育記録の工夫
- 園内研修の充実と推進
- 同僚性の向上
- 幼小連携、一貫教育の推進

夢中になって遊ぶ子どもの育成

○・・・評価できる
 ▲・・・課題・展望
 ●・・・外部評価

重点目標 下位項目	具体的な手立て	目標値等	評価・課題・展望
基本的な生活習慣や生活に必要な技能の育成	・場面に応じたきめ細やかな言葉かけ（対幼児、対保護者） ・各学期に行う学級懇談会等で担任から課題等について説明をする ・三重県教育委員会が実施している「生活習慣チェックシート」の実施と分析、結果の公表	・学級懇談会 年間3回 ・個別懇談会 年間2回 ・生活習慣チェックシート 実施 年間3回	▲生活習慣等についての言葉かけは必要な場面、幼児に応じて都度行っているが、教員同士の確認や見直しが十分ではなかったのではないかな。 ○学級懇談会、個別懇談会では子どもの園生活の様子を具体的に写真で示しながら伝えた。成長しているところ、課題等を共有することができていた。 ○生活習慣チェックシートは毎回9割程度の提出があり、ほとんど全員が積極的に取り組んでいる。 ▲生活習慣チェックシートについての分析を行い、保護者や子どもにフィードバックすることができていなかった。
身体感覚の育成	・ニコニコタイムの実施 ・身体をしっかりと動かして十分に遊ぶことを大切にした保育を行う		○1学期は感染症対策の観点からもニコニコタイムの実施ができなかった。2学期以降、状況を踏まえながら実施。3学期は身体を動かすニコニコタイムの実施を少なくし、異年齢でのかかわりを重視した内容のものを行った。 ○身体を十分に動かして遊ぶことを保障できたと思う。 ▲クラス、学年によって程度の差があるのは否めない。時期ごとに全体で振り返ること（教育課程の見直しにもつながる）が必要ではないかな。 ●健康・安全管理の面においてはクラスの人数が異なることもあって保護者の中に心配が生じやすい状況にあるかもしれない。保護者への丁寧な説明も必要。
意欲、好奇心、探究心、集注して取り組む力等の育成	・場面に応じた適切な援助、言葉かけ ・幼児の遊び、活動の姿を見取り、一人一人に応じた適切な環境構成をする		▲幼児理解、遊びの見取りに基づいた適切な環境構成と教師の援助について、一人一人の教員は一生懸命取り組んでいる。一方でそれを共有する時間がなく、学び合いの場がないことが課題である。 ➡幼児のこと、保育について等、気軽に意見交換のできる状況を工夫する。
豊かな心情・意欲・態度の育成	・場面に応じた適切な援助、言葉かけ		

友達とつながる嬉しさ、かかわる喜びを感じられる子どもの育成

○・・・評価できる
 ▲・・・課題・展望
 ●・・・外部評価

重点目標 下位項目	具体的な手立て	目標値等	評価・課題・展望
人への親しみ、信頼感の育成	・日頃の保育を通して、友達とのつながりを作るような援助、言葉かけ、環境構成を行う ・全職員がどの幼児にも温かな気持ちで言葉をかけ、接する		○全職員が積極的に子どもに言葉かけができた。 ▲教員については、研究テーマである「人との対話（かかわり）が深まる」ことを意識した言葉かけができていたか、の振り返りや検討が必要となる。
コミュニケーション能力の育成	・ちょうちょの門、昇降口での積極的な挨拶 ・「ありがとう」「いれて」「ごめんなさい」等生活に必要な言葉の獲得に向けた援助 ・発達に応じた援助、人とかかわる楽しさ、充実感を味わえるための援助		○園長、副園長、養護教諭がちょうちょの門で朝の受け入れを行い、積極的に挨拶をする。担任は昇降口での受け入れを行う。年度が進むにつれ、保護者だけでなく幼児も元気に挨拶を行うようになってきている。 ○附属学校全体で挨拶運動を行ってきた。管理職が登校時に総門等に立ち、安全指導と挨拶運動を行う。どの校種も気持ちの良い挨拶をする子が増えてきた。 ○子ども同士のトラブルや葛藤場で教師は丁寧なかかわりを重ね、保護者にも伝えることで園と家庭が一緒になって子どもを育てていくように心掛けた。 ○クラス間、異年齢間交流が盛んにおこなわれ、クラスを超えて遊ぶ姿が多く見られた。
四季、自然事象への興味関心	・野菜や草花の栽培 摘んで遊べる草花の栽培 ・砂や土、水を使った遊びを積極的に行う ・教師自身が自然についての興味関心を深めて見識を広げ、学び、保育に還元する	・大学連携による教師の学びの場を年間3回設ける	○バンジーを使った色水遊びや草花遊び、どんぐりや落ち葉の遊び等、自然を活かした遊びを積極的に行うことができた。 ○園庭の栗やキウイの試食、クラス前畑の野菜の試食等も行う。 ▲当たり前となりつつある園庭環境、自然について再確認、見直し、改善する時期なのではないか。
異年齢の友だちとの交流	・自然発生的な異年齢交流に加え、意図的に異年齢が交わって遊ぶ場を積極的を作る ・異年齢交流を通した子どもの学びの姿を明確にする		○保育室配置が変わったことで異年齢交流が活発になり、これまでにはない新たな発見、学びとなった。行事や活動においての意図的な異年齢交流も積極的に行った。 ▲異年齢交流での子どもの学びの姿を共有、明文化することができていない。 →「人との対話が深まる」の視点からも記録に残し、研修での検討をしていく。
家庭との連携推進	・登降園時等に保護者と積極的にコミュニケーションをとり、幼児の様子や幼稚園生活について伝える等の情報交換を行う ・クラスだよりやポートフォリオ等で園生活の様子を伝える	・クラスだより月2回以上	○登降園時やスマイルタイムを活用し、保護者との積極的なコミュニケーションをとることができた。 ○「遊びと生活」に基づいた内容のクラスだよりの発信ができた。 ○写真の掲示も活用し、子どもの様子を保護者に伝えることができた。 ▲タイムリーな様子の発信が難しい状態である。 ●たくさんの人数の中で子どもたちが育つ良さを保護者にどのようにアピールするかも大切である。集団の刺激を受けて育っていくことをきちんと伝えること、保護者とのコミュニケーションをどのようにとるかも大切である。 ●今は主体性を尊重していく時代。一クラス30人でも多いくらいである。今、保育園配置基準を考え直している時期である。幼稚園でも人数が多いと一人一人に向きあえていないのでは？と保護者は思ってしまう。一人一人を見てほしいという気持ちが強い。

保育環境の充実

○・・・評価できる
▲・・・課題・展望
●・・・外部評価

重点目標 下位項目	具体的な手立て	目標値等	評価・課題・今後の展望
ひととの対話が深まる保育環境について考える	・園内研修にて事例の検討を行う ・行事や活動を行う際に教材についての分析と教材研究を行う ・定期的に教職員間で保育室の環境構成を見合い、改善する		▲環境構成について教員相互で参観し、検討し合う機会を定期的に持つことができなかった。 ➡定期的な相互参観の機会を意識して持つことができるよう、担当を決めて行う。 ➡教材について2年間、3年間の育ちを見通した教材の提示の方法や経験の積み重ね、指導の在り方を検討していく
安全で安心な環境づくり	・教職員による安全点検 ・安全指導と避難訓練の実施	毎月 特に年度当初は重点的に安全指導を実施。毎月の避難訓練実施	○教職員による毎月の安全点検を実施。危険箇所、修理が必要な箇所について教職員で修理、または業者に依頼して修理を行う。 ○業者による遊具の安全点検を行う。 ○年度当初、また必要に応じて安全指導を行う。 ○毎月の避難訓練を実施。 ・地震を想定した避難訓練 5回 ・引き渡し訓練 1回 ・火災避難訓練 1回 ・不審者訓練 1回 ・交通安全指導 1回 ・着衣水泳 1回 ・非行防止教室 1回 ●保護者アンケートからは施設設備の老朽化、安全面の課題が挙げられていたが、具体的な部分が不明確であり、対策の方法が考えにくい。
幼児理解に基づく適切な保育環境の構成	・教職員による定期的な環境構成の相互参観と検討 ・園庭環境についての定期的な検討と再構成		○園庭環境について見直しを行う。 老朽化していたレンギョウのトンネルを修理。 ▲環境構成について教員相互で参観し、検討し合う機会を定期的に持つことができなかった。 ➡定期的な相互参観の機会を意識して持つことができるよう、担当を決めて行う。
教材研究・自己研鑽の充実	・保育計画の見直し ・行事内容についての見直しと精選		○各行事について内容の見直しと検討を行った。今年度はメールでの検討も取り入れ、業務時間を有効に使えるように工夫した。 ○行事内容については、感染症に関して国、県、市、附属間の方針に鑑みながら実施した。

教師の資質向上

○・・・評価できる
 ▲・・・課題・展望
 ●・・・外部評価

重点目標 下位項目	具体的な手立て	目標値等	評価・課題・今後の展望
幼児の発達の理解、発達を意識した援助	・月案検討、「遊びと生活」検討 ・園内研修で幼児理解と教師の援助について検討を重ねる ・教師間で日常的に保育と幼児についての情報交換を行う	毎月	○毎月初めに保護者に向けて「遊びと生活」を発信する。 ○「遊びと生活」に掲げたねらい、内容について保育の中でどのように実現できたかを月末のクラスだよりで発信する。 ▲上記のことについて担任が自分の保育を振り返り改善するひとつの手立てとなった。自分の保育や子どもの姿の捉え方が明確になる機会でもあり、今後の研修の在り方についても検討していくヒントとなった。 ●保護者アンケートで「一人一人の子どもの理解、良さを伸ばす指導」「けが、病気などの健康安全管理への配慮、迅速な対応」が結果が他と比較して評価が低いこと。結果を受け止め、次年度の保育、指導の在り方を考えていくべきところである。 ●今、「ひとりひとり」や「その子らしさ」「その子のもっているもの」といったことが大切にされるとともにそれを社会全体が求めている。「多様性の中の一人」を大事にしてほしい。子どもらしさ...つまりその子らしさをのびのびと発揮して可能性を広げていく、といったことを目z須幼稚園像にどのように入れていくかを今後考えてはどうか。 ●個性を見せていくこと、それを発揮していくこと、この姿を園の中で見取り、保護者に伝えていくことが大切であり、教育理念の中に含ませていくと良い。
保育記録の工夫	・保育記録のフォーマットを作成し、記録する ・毎日の記録を活かした週案、月案の立案	毎日	○保育記録のフォーマットを活かし、記録を行うことができた。
園内研修の充実と推進	・研究テーマ「人との対話が深まる保育環境を考える～遊び込む姿を目指して」の推進 ・教育課程の検証	園内研修は基本的に月2回	○園内研修において「遊びと生活」に掲げたねらいに基づいて事例をあげ検討を行う。 ▲教育実習や行事等で月2回の研修会の時間を確保することが難しい時もあった。 ▲事例を書くことの困難さ、取り上げる事例の内容等について課題が残る。 →話し合いの充実により幼児理解を深め、保育の質を向上していくことができるよう、研修内容、研修の方法を工夫していく。
同僚性の向上	・対話しやすい雰囲気作り 日ごろからのコミュニケーションの構築 ・相互参観を行い、協議する	年間5回 (各担任)	○日頃から保育前、保育後のちょっとした立ち話等での情報交換が行われ、話やすい雰囲気は作られている。 ▲相手の心情に配慮するあまり保育のことや子どものことに踏み込めないところがある。 ●今後預かり保育が始まることでより担任、補助の先生、預かり保育担当の先生が連携を取りながらしていく必要が出てくるだろう。子どもの様子を引き継ぐ方法等、工夫して取り組んでほしい。 ●預かり保育では特に翌日への遊びのつながりや長期休業中の過ごし方、異年齢の体力差等を丁寧に考えていく必要もあるのではないか。
幼小連携、一貫教育の推進	・小学校教諭と共に「架け橋プログラム」に係る話し合いの場をもつ ・小学校教諭と積極的に情報交換する ・一貫教育において、附属学校園の教諭と共通の課題を協議する		○小学校教諭の参観、幼稚園の研修会への参加、授業参観、話し合いの機会は増え、幼児児童の交流も増えた。 ▲幼小接続、連携について踏み込んだ話し合いはまだ難しい。 ●預かり保育も含め、保護者のニーズも鑑みながら特色を出した保育を工夫して行ってほしい。 ●子どもが学びを深めていけるような取り組みを増やしていくスタンスを大事にしてほしい。人件費も考慮しつつ、附属でできることに取り組んでいくことが肝要。

教師の資質向上

研修会の開催

研修会内容	日程・回数	内容	参加人数
相互参観	5月～6月 5回	クラスごとに保育を公開し、保育終了後協議を行う。特に今年度の研究テーマである「ひととの関わり」に着目した内容で話し合いを深めた。	
附属間合同研修会	8月 2回	・東海地区附属学校研究協議会では東海3県の附属幼稚園が集まり、令和3年度文科省委託研究事業で三重が中心となって作成した研修動画を基に研究協議を行う。 ・金沢大学附属幼稚園とオンラインで合同研修会を行う。委託研究で作成した研修動画を基に協議を行った。	東海3県附属幼稚園教員 金沢大附属幼稚園教員
公開保育研究会 (保育を語る会)	10月27日 (木)	感染症対策のため人数を制限して公開保育を行う。午後からは研究報告並びに研修動画を基に協議会を行った。	33名
保育研究会Ⅱ (オンライン)	11月12日 (土)	昨年度にも開催したオンラインでの研究会を行う。参加希望の方には事前に保育動画を送り、動画を基にパネルディスカッションを行った。パネラーは上智大学奈須正裕先生、附属小学校教諭、本園教頭。また奈須先生の「遊びと学びをつなぐこれからの幼小接続」講演会を行った。	49名
秋田喜代美先生 との研修会 (オンライン)	2月22日 (水)	1月後半から2月初旬にかけての時期の幼児の姿からひととの対話が深まる保育環境について協議し、秋田先生からの指導助言をいただく。参加者には事前に動画を送る。	20名
園内研修会	通年	保護者に向けて毎月発信している「遊びと生活」のねらいからひととの関わりの部分についての事例を出し合い検討を重ねた。	教員

教師の資質向上

発表・提案等

	内 容
文部科学省委託研究事業	テーマ「幼児の遊びや生活を豊かにするICT活用に関する研究」 今年度は京都教育大学附属幼稚園が中心となっていく。各附属幼稚園から事例を収集しまとめていく。本園からも幼児がプロジェクターや書画カメラ、デジカメを使って「化け合戦を影絵で表現したい」の事例を提出した。
全附連幼稚園部会 提案	7月27日（水）にオンラインで開催された全附連幼稚園教育研究集会 弘前大会の第3分科会「探究心の育成」で早川ひろみ教頭が「どのような環境やかかわりが探究する姿を引き出すのかを探る」について提案した。
ソニー教育幼児教育支援プログラム	2022年度ソニー幼児教育支援プログラム保育実践論文に応募、奨励賞を受賞。

連携活動

	小学校	中学校	特別支援学校	大学
1	4月 年長児と1年生 小学校に質問しに行く	5月～6月 全園児 5回 中学校3年生との交流	5月 保護者（園児） タマネギ販売	家政教育講座 学生参観、行事の補助
2	5月 年長児 運動会の練習見学	6月 年長児 SDGsの取組で紙芝居披露	6月 年長児 タマネギの収穫	英語教育講座 中川先生 年長児「えいごで遊ぼう」2回
3	7月 教員 生活科の授業参観	9月 全園児 中学校体育祭の見学	7月 年長児 タマネギのお礼を言い	国語教育講座 松本先生 「七夕のおはなし」
4	8月 教員 小 夏季研修会参加	10月～11月 全園児 5回 3年生との交流活動 ②		理科教育講座 伊藤先生 星を見る会 開催
5	8月 教員 幼稚園の研修会に参加	12月 全園児 クリスマス会への参加		保健体育講座 後藤先生 年長組 親子活動
6	7月 9月 保護者 小学校授業参観			幼児教育講座 富田先生 水津先生 公開保育研究会 指導助言
7	11月 教員 生活科の授業参観			幼児教育講座 水津先生 保護者向け講演会
8	11月 教員 幼稚園の研修会に参加			幼児教育講座 富田先生 水津先生 保育研究会 指導助言
9	11月 教員 小学校の研究会に参加			保健体育講座 岡野先生 加納先生 年中組 親子活動
10	1月 教員 年長児の様子を参観			保健体育講座 後藤先生 音楽教育講座 森川先生 年中組「おばけになろう」
11	2月 年長児 1年生が来園 一緒に遊ぶ			美術教育講座 上山先生 年少組 紙粘土でお弁当
12	2月 年長児 1年生 小学校での交流活動			美術教育講座 上山先生 年中組 絵の具で遊ぼう
13	3月 年中 年長児 小学校へ園外保育		数学教育講座 田中先生 年長組 紙飛行機を折ろう	国語教育講座 林先生 年長組 筆体験
14			保護者向けコラム発信 5回	幼児教育講座 富田先生 コアラの会